

OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 滝本 大晴
所属 (School) 工学研究科物質・化学系専攻
学年 (Grade) 博士前期課程 (2年)

留学先 (Name of overseas institution)
Chang Gung 大学 (台湾)
留学期間 (study abroad period)
2017/7/30~2017/8/3

記入日 (Date) 2017/8/7

留学レポート Study Abroad Report

~目的~

The 7th Asian Particle Technology Symposium でのポスター発表および
Chang Gung 大学ラボツアーへの参加

事前準備

ポスターでの学会発表は2度目であるが、国際学会は初めてであったため事前準備には苦労した。特にポスターを英語で発表し、英語で質疑を行わないといけないことが課題であった。大阪府立大学では、海外での発表する学生を対象とした英語プレゼンテーション研修が行われており、ネイティブスピーカーの方に直接指導を受けることができる。研究室での練習だけでなく、私もそれに参加し英語での発表練習を行った。特に参加してよかったと思ったことは、ネイティブスピーカーの方の質問が想定していたよりも専門的であったということだ。英語の表現や発音などだけを指導してくれるのだろうと思っていたが、専門的な質問もされ、学会発表と近い雰囲気での練習できたことには驚いた。

~ポスター発表~

ポスター発表本番では中国人やインド人、ヨーロッパの人と様々な人から質問やコメントがあり、今後の研究に活かせる貴重なアドバイスをいただいた。私の研究は粉体シミュレーションの計算モデルに関するものであったためか、質問に来る人も同じ手法を使っている人やシミュレーションソフトウェア会社の人が多く、計算アルゴリズムに関する専門的な質問もあった。なかでも印象に残っているのは Particle Analytics 社のソフトウェア開発の方が質問に来てくれたことだ。この会社は粉体シミュレーションのソフトウェアを開発している会社である。初めはそのことに気付かず、質問内容が計算アルゴリズムに関する専門的な内容であったため、「この人はなぜここまで知っているのか？」と思うほどであった。後でこの人が講演しているのを見て、ソフトウェア開発を行っている企業研究者であることを知った時は、このようなソフトウェア会社の人が自分の研究に興味を持ってくれたことにとてもうれしく感じた。

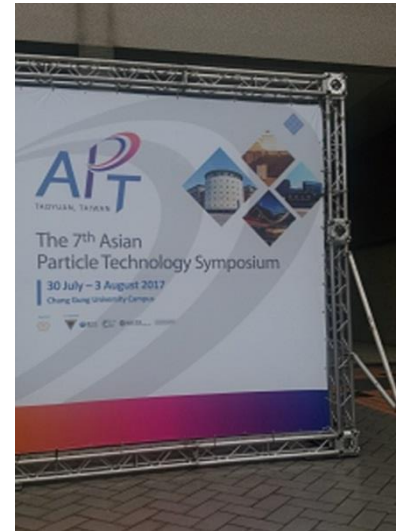


ポスター発表の様子

～学会に参加して～

学会は3日間あり、私の発表は2日目のみであったため1日目と3日目は他の人の研究を聞くのがメインであった。発表は当然英語であり、質問も当然英語でしなければならない。こういったやり取りは初めての経験で、とても良い経験となった。

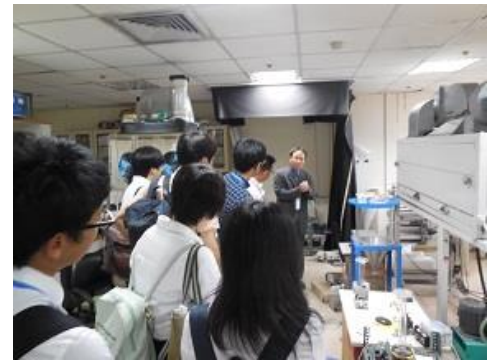
学会に参加して面白いと感じたことは、同じシミュレーション手法を用いている人と話すことができたことだった。特にソフトウェアを使わずに自分でコードを組んでいる人は珍しく、苦労話や情報交換ができて楽しかったのが印象的だった。学会に参加することで異分野だけでなく、逆に自分と近いことをしている人と話せることも一つの楽しみであると思う。



学会会場前

～ラボツアー～

ラボツアーでは学会会場である Chang Gung 大学の研究室を見学した。見学した研究室は Chemical and Materials Engineering 分野の Hsiu-Po Kuo 教授の研究室であり、粒子(粉体)に関する研究を行っている。ラボツアーでは論文や教科書でしか見たことがない実験装置を見ることができ、自分の所属する研究室では味わうことのできない貴重な経験ができた。特にバイオマスに関する流動層がドラフトの中に入っており、研究室内でバイオマスの燃焼実験を行えるということには驚いた。また、噴霧乾燥器や攪拌造粒機などの粉体プロセスに関する機器があり、私の所属する研究室と近い雰囲気を感じた。それらは私の所属する研究室にあるものよりも小型であり、ラボスケールでの実験により特化しており、ぜひ使ってみたいとも感じた。一緒に学会に参加していた先生方も興味を持ったのか、メーカーと値段を聞いていたのが印象的であった。



ラボツアーの様子

～Chang Gung 大学～

学会会場である Chang Gung 大学はとても広く、大学内で自動車が走れるほど道路が整備されているほどであった。日本とは異なり駐輪スペースは見当たらず、駐車場が多い。そして単車が多くみられたため、学生の大多数はバイク通学であると思われる。また、大阪府立大学とは異なり、簡単に大学の Wi-Fi に接続することができた。ちなみに台湾では無料で Wi-Fi に接続できる場所が多く、電車の中にまで無料 Wi-Fi が設置されている。そのため、スマートフォンさえあれば迷子にはならなさそうである。



Chang Gung 大学

～最後に～

事前準備や学会でのやり取りは大変ではあったが、日本では味わうことのできない貴重な体験ができたと思う。特に英語でのコミュニケーションの難しさを痛感した。国により発音に癖があり、何回も聞き直した場面もあったが、自分の言いたいことが伝わった時はすごくうれしかった。学生のうちに様々な国の人と英語でやり取りする機会は今までなかったので、この学会に参加できて本当に良かったと感じている。